資料４

重点施策に関する論点整理

論　点	現　状	課　題
１　文化ボランティアの養成 ・支援する人々との協働の促進 ・地域の人々の参画の促進	・文化ホールや美術館における文化ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱは、研修会の開催などにより毎年養成しているが、その実数は概ね横ばい状態である。 〈文化ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ数〉 県ﾎｰﾙ　H19:86 名　H20:84 名　H21:103 名 県美術館等 H19:132 名 H20:155 名 H21:137 名 ・文化財に関しては、H14～16 年に、富山県いきいき文化財博士 235 名が登録され、以後、毎年研修会等を受講させることで、本県文化財ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体のリーダー的人材の養成を行っている。 ・洋舞、日舞、邦楽等のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体が、とやまこども芸術活動支援協議会を結成し、子どもたちの幅広い文化活動を支援している。 ・H22 年の文化に関する県民アンケート（以下「アンケート」という。）によると、何らかの文化ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を行っている割合は、6.2%と前回アンケート（H17）結果 12%から低下している。	・昨今、ｽﾀｯﾌの増員が見込めないことから、事業等の運営でﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに頼るところは大きいが、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの高齢化が進んでいることから、引き続き、ある程度のスキルを有したﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの養成が必要な一方、多くの若い人がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに気軽に参加する仕組み作りが必要である。 ・いきいき文化財博士を登録後、かなり経年していることから、実働者が固定化、高齢化してきているので、いきいき文化財博士の役割の再考も含めた文化財ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの養成について再検証する必要がある。 ・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ人材を活用するシステム作りが必要である。
２　子どもたちの文化活動の充実 ・青少年の芸術鑑賞、体験事業の充実 ・学校教育における文化活動の充実と地域文化活動への理解の促進 ・伝統文化への参加と体験の機会の確保	・H17 から県立美術館、博物館の小中校生等の通年無料化を実施し、子どもたちの美術等の鑑賞機会を図っている。 ・学校や地域での優れた美術作品の巡回展示、文化ホールからの出前公演、子ども自身が参加する芸術の体験型事業、親子で楽しむ解説付きの講座などを開催している。 ・青少年が行う美術、文芸の創作、舞台発表など文化活動の発表機会を拡充するとともに、美術教室事業やこども文化活動を支援している。 ・青少年の意欲的な芸術活動への働きかけと技術向上の指導を行うため、芸術の専門家をアドバイザーとして派遣するほか、スクールバンド育成事業などを開催している。 ・世界こども舞台芸術、全日本地域選抜モダンダンス・ガラ・ジュニア、国際吹奏楽フェスティバルなどの国際大会や全国高等学校総合文化祭など、子どもたちが文化交流する大会への参加促進や開催を通じて子どもたちの文化交流、国際交流の機会を拡充している。	・県立美術館等の無料化の周知度が依然低いため、あらためて県民に周知する必要がある。 ・子どもたちに本物の舞台芸術や美術作品等の文化芸術の鑑賞・体験機会を確保・拡充するために、引き続き、事業を展開していく必要がある。 ・学校教育の中での文化芸術活動への関わることの重要性は認知されているが、これらに対応できる学校現場の体制等の充実が必要である。 ・学校教育での伝統文化の伝承の取組について、より一層の充実が望まれている。 ・子どもの頃からの文化における国際観を養うためなどに、引き続き、子どもたちの国際文化交流事業を拡充・展開していく必要がある。

<table>
<tr><th>論　点</th><th>現　状</th><th>課　題</th></tr>
<tr>
<td>３　国内外に発信する文化芸術事業
・世界演劇祭の開催などによる舞台芸術の発信
・世界こども演劇祭等による創造と発信の推進</td>
<td>・利賀芸術公園での国際的な舞台芸術の創造や発信、人材育成事業を取組んでおり、とりわけ、アジアとの交流・発信に力を入れている。

・とやま世界こども舞台芸術祭や、世界ﾎﾟｽﾀｰﾄﾘｴﾝﾅｰﾚﾄﾔﾏ、いなみ国際木彫刻ｷｬﾝﾌﾟなど国際的評価の高い地方独自の国際文化交流事業を展開し、国内外に発信している。</td>
<td>・引き続き、富山から国内外に向けた国際的な文化芸術事業を発信していく必要がある。

・ﾎﾟｽﾀｰﾄﾘｴﾝﾅｰﾚﾄﾔﾏのように、東京での巡回展を開催するなど、東京をはじめ、全国的に関心を持ってもらえる発信事業とする必要がある。</td>
</tr>
<tr>
<td>４　後継者の養成・育成
・若手芸術家の育成
・伝統文化・伝統芸能の後継者育成</td>
<td>・舞台芸術など芸術家としての安定的な雇用が確保されないため、就学終了後、芸術を断念せざる得ない状況が多々ある。

・指導者招聘事業、芸術文化ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ派遣事業やとやま室内楽ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ（ｼﾓﾝ･ｺﾞｰﾙﾄﾞﾍﾞﾙｸﾞ）の開催などによる若手演奏家等の育成支援を行っている。

・伝統工芸の分野でも、生計的に厳しいため、従事者の離職や、後継者不足が問題化している。
県内伝統工芸品（高岡銅器、井波彫刻、高岡漆器、庄川挽物、越中和紙）従事者数推移
<table>
<tr><td>H2</td><td>H11</td><td>H16</td><td>H21</td></tr>
<tr><td>4,548 人</td><td>2,963 人</td><td>2,289 人</td><td>2,111 人</td></tr>
</table>
・伝統的工芸品の新たな活用法等を企画・提案する「販路開拓マイスター」の設置などにより、後継者の確保や技術・技法を継承できる環境の整備に努めている。
伝統的工芸品販路開拓ﾏｲｽﾀｰ事業（H22:5,500 千円）

・伝統芸能においては、少子化、核家族化などにより、担い手の高齢化や継承者不足が問題となっている。

・文化芸術の後継者育成に関しての効果的な支援策がほとんど無いのが実情である。</td>
<td>・文化芸術における後継者の効果的な養成・育成のためのシステムの構築などを、文化分野に限らない様々な分野の立場から早急に検討する必要がある。</td>
</tr>
</table>

論　　点	現　　状	課　　題
５　食文化の発信 （・食文化の魅力を全国発信）	・全国に誇る素晴らしい食材と、かつて北前船でにぎわった北海道との物資交流の拠点などとして形成された彩り豊かな食文化の伝統を活かした「越中料理」を継承、創作し、全国ブランドへの育成を図りつつ、広く県内外への発信を行っている。 食文化に関する主な取組み(H22 予算額:千円) 「越中料理」推進事業（5,600） 「越中とやま食の王国」づくり事業(37,216) とやま食育運動推進事業(15,600)	・富山の食文化のすばらしさを全国的にアピールするために、引き続き、富山の食文化を県内外に発信していく必要がある。
６　文化を活かしたまちづくり・地域づくり （・地域文化の再発見と活用 ・地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進）	(1)世界文化遺産登録 ・「立山・黒部における砂防施設群及び発電施設群や、立山信仰に係る文化遺産」と、「近世高岡の文化遺産群」の世界文化遺産登録を目指して取り組んでいるところである。 (2)ふるさと文学の振興 ・富山の自然・風土が育んだ富山ゆかりのふるさと文学は、先人の心を知り、郷土の良さを伝えていくためのかけがえのないものであり、こうした作品や作家は多数あるもにもかかわらず、必ずしも知られている状況ではない。 　このため、平成 20 年度から、ふるさと文学の基本的な振興策や拠点施設整備の考え方について検討を進め、その結果、２２年３月に拠点施設の整備に係る基本方針をとりまとめ、24 年夏頃の開館を目指し準備を進めている。 ・後世に残すべき県民の共有財産としての貴重な文学資料等は、体系的・総合的な収集・整理に努める必要があるが、特に、個人所蔵のものについては今後散逸してしまう恐れがあることから、安心して寄贈・寄託ができる仕組みとして、「ふるさと文学資料発掘チーム」を設置するなど、資料の散逸防止に取り組んでいる。 (3)文化を活かしたまちづくり ・歴史的・文化的資源を活かし、商店街や観光地の賑わい創出など個性あふれるまちづくり活動を支援している。 歴史と文化が薫るまちづくり事業　(H22:67,700 千円) とやまっ子まちなかｱｰﾄ in 商店街事業 (H22:23,210 千円) 歴史と文化が薫る商店街モデル事業（H22:4,255 千円）	・引き続き、世界文化遺産登録に向けたより一層の取組みが必要である。 ・拠点施設については、 ①ゆかりの作品、作家を紹介する総合的な窓口 ②文学のほか、絵本、映画、漫画なども紹介し、いつでも気軽に楽しみ学ぶ機会の提供 ③深く調べる、発表する、創作する場の提供 を基本理念に、 子どもから大人まで、県民のみならず観光目的で訪問した人でも、誰もが気軽に親しみ学ぶことができ、何度でも足を運びたくなるような魅力的な施設にする必要がある。 ・「ふるさと文学資料発掘チーム」の情報収集活動をより一層充実させていく必要がある。 ・県内の歴史的・文化的資源を更に洗い出しし、これらの資源を活用した観光振興や地域の活性化を図っていく。